

岡山を支援拠点に

岡山同友会と AMD A構想 大規模災害備え

岡山経済同友会の松田久代表幹事と国際医療ボランティアAMD Aグループの菅波茂代表が1日、岡山市内で

記者会見し、西日本で大規模災害が発生した際、岡山が海外からの救援チームを受け入れる拠点となるよう、両団体が協力して行政などに働き掛けていく考えを明らかにした。

構想では、国連人道問題調整事務所（UN OCHA）、世界保健機構（WHO）、スイスユニオン銀行などと両団体が連携。交通の便が良く災害が少ない岡山の立地特性を生かし、迅速に海外から人

や物資の支援を受け入れられる体制を構築し、南海トラフ巨大地震などに備える。

松田代表幹事と菅波代表が1月14日から20日までスイスを訪問



し、関係機関の実務担当者らと会談して合意したという。今後はUNOCHAとAMD A

で覚書の締結に向けて協議していくほか、岡山市と倉敷市に対し、

緊急救援基地となることを目指す条例の制定を提案する予定。

松田代表

は「南海トラフ地震では甚大な被害が出る可能性があり、海外からの救援が不可欠にな

大規模災害時に岡山を救援拠点にする構想について説明する松田代表幹事（右）と菅波代表

る。国際機関との関係強化に努めたい」と説明。菅波代表は「世界各国から支援を受けるには、国連を通じて呼び掛けてもらうのが効果的。地域として災害に備えるモデルケースにしたい」と話した。

両団体は昨年3月、大規模災害時の緊急医療支援活動に関する連携協定を結んでいる。

（田中泰）